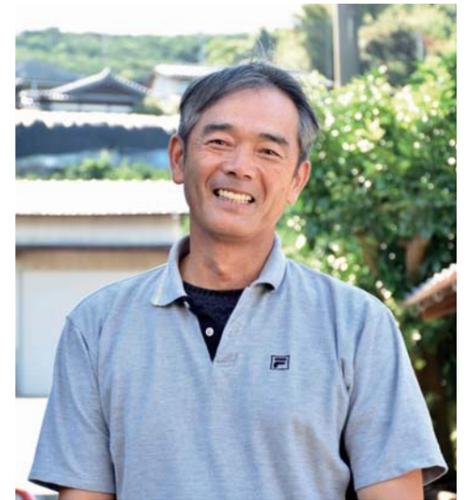


# 心・モノ・知識・組織を備える

今年4月に自主防災組織を立ち上げた不知火町上区区長の谷川さん。平成11年の松合地区高潮災害を体験し、元消防士でもある谷川さんに話を聞きました。



上区区長 谷川 英明 さん(63)

不知火町在住。消防署員として災害現場で活動してきた。自身も高潮の被害に遭い、友人の家族や知人を亡くしている。

## 「声かけ」のきっかけに

昨年、区長になって始めた「上ヶ区だより」で今年1月、区民の皆さんにアンケートを取りました。その項目の1つが自主防災組織の結成でした。すると、約9割の家庭が賛成。同時にさまざまなご意見も頂きました。

必要ないと思う人は、自力で避難できるような恵まれた人が多いようです。でも1人暮らしや高齢者の世帯はそうはいかない。区の行事は減り、関係性も薄まる中、近所の人と「大丈夫だったな？」など声掛けをし合

うことで、不安が少しでも和らぐかもしれませんが。だからこそ「災害後には、隣近所同士でお互いの無事を確認し合うようにしましょう」と決めました。防災にせよ、防犯にせよ、結局は「声かけ」から始まるし、それが実は一番難しい。だから、そんなつながりを区の中で作っていったらと思うんです。

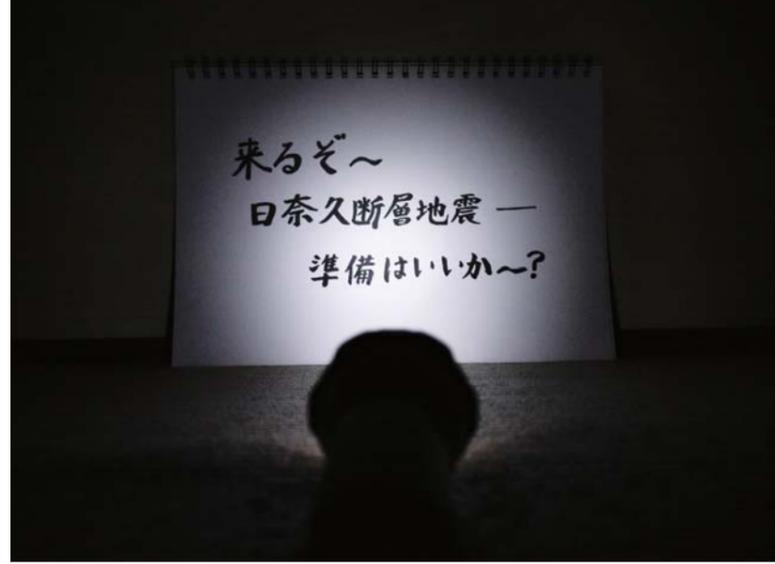
## 防災とは

防災ってなんだと思いますか。防災は、前もって準備すること。心、モノ、知識、そして組

織を準備することだと思っています。昔、沖繩のある離島に行ったとき、港に横断幕がありました。「来るぞ台風、準備はいいか」沖繩は台風の通り道。毎年頻繁にやって来る災害に、早くから危機感を持っています。普段、何もないときにどれだけ準備できるのか。本気で…。

## その準備が命を救う

高潮のあの日は、朝5時頃に海の近くに住む友人から「海水が、2階まで来ていてどうしよう」と電話が入ったのが最初。



停電したら、周囲は一変。停電への準備はできていますか。

私は準備していた災害用バッグを担ぎ、強風が吹き荒れる外へ。港付近の住宅は、映画のセッティングのように1階の屋根付近まで海水に浸かっていました。すると、水没した平屋に人がいるとの情報。まさかと思いつながら屋根に乗って瓦をたたくと、瓦の下から「ここにいます」と小さな声。バッグに入っていたバールで壁のトタン板を外し、懐中電灯を頼りに真っ暗な小屋裏に入りました。中では息子さんとお父さんを抱きかかえていました。私は息子さんに代わり、濡れて重くなったお父さんを担



枕元には靴を準備。その中には懐中電灯を2つ。熊本地震時も活躍した。

ぎ、外の消防団員にのこぎりや屋根を切ってもらい、救出。仕事柄、準備は徹底していたけれど、まさか本場に必要になるとは。各地で講話をするときに話すのですが、まずは、何か1つ実践することが大事。今できる準備が、いざというときに自分や他の人を救います。

# みんなであらゆる

## 自主防災組織には補助制度があります



☎ 防災消防課 32-1766

必要な物品の購入費用をサポート

### 自主防災組織資機材等購入補助金

**対象** 発電機、ヘルメットなどの防災に必要な消耗品類

**補助額** 5万円まで(1,000円未満の端数切り捨て)

**申請方法** 見積書と専用の申請書を防災消防課へ提出

※自主防災組織1団体につき1回のみ申請可能

設備などの整備をサポート

### 地域防災組織育成助成事業補助金

**対象** 地域の防災活動に直接必要な設備など(建築物や消耗品を除く)

**補助額** 30万~200万円

**申請方法** 防災消防課へ電話または窓口で申請

**申請期限** 9月30日(金)



不知火町長崎区に整備した防災無線

自主防災組織の結成は、地区の防災計画を作ることから。運営方法など、相談は防災消防課で受け付けています。

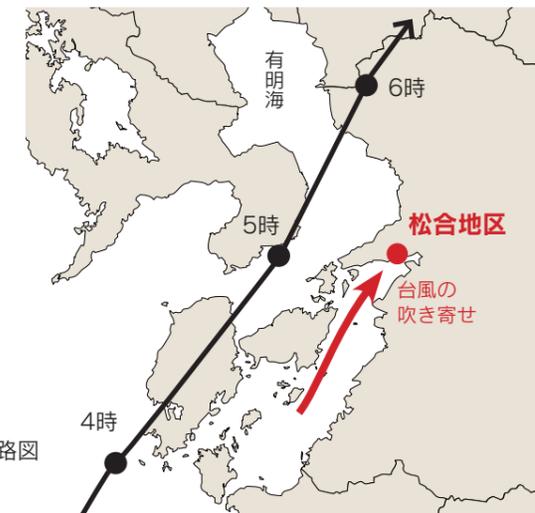


## 平成11年台風18号と松合地区 data



屋根下まで水位が上がり、4人が亡くなった町営松合住宅

平成11年9月24日午前5時頃、台風18号は松合地区に最も接近。同地区が面する八代海は、大潮の満潮2時間前を迎えており、30~50cmの猛烈な暴風雨で高潮が発生。5時50分頃に高潮は松合地区低地の集落約60世帯を襲い、浸水で逃げ場を失った12人が亡くなった。



台風18号進路図